

専任社員における列車長・車掌長への 指定は、本人の意思を尊重すること!!

《新幹線車内業務の見直し以降の労働強化項目》

- 車掌乗組、3名体制から2名体制へ実施。
- 英語肉声放送の実施。
- 自由席改札の強制及び調査活動。
- 特大荷物置場の設置と事前予約制の導入。

昨年実施された新幹線車内業務の見直しにより、車掌3名体制から2名体制になり、中乗車掌が行っていた業務のほとんどを車掌長が行わなければならなくなりました。

現在、専任社員の列車長・車掌長にとって、多大な業務量増は肉体的・精神的に過度の負担となっています!!

私たちは、このような状態で今後、間近に迫ったラグビーワールドカップ開催、来年開催の東京オリンピック・パラリンピックを控え、専任社員の皆さんが車掌長として全うすることが出来るのか、大変危惧しています。

また、このような状態での業務遂行は、旅客をはじめ会社にとっても、良い結果をもたらせることはないと判断します。

さらに、会社は、「自由席調査活動」という名目の労働強化・監視や来年5月から「特大荷物の施策導入」など、現場で働く乗務員の声は一切耳を傾けることなく、次から次へと施策を導入し実施しようとしています。既に専任社員からは、「肉体的・精神的にも車掌長としてぎりぎりのところに来ている。」と声が上がっています。

現在、東海労本部は、本社と「協約・協定改訂」団体交渉を開催しています。要求項目の中に「専任社員における列車長・車掌長への指定は、本人の意思を尊重すること。」を要求しています。

会社は専任社員の意見を聞き、誠意を持って 早急に専任社員の労働条件を改善すべきだ!!